

座談会

山元町の上下水道事業支援に関する協定締結10年を迎えて

横浜市と横浜ウォーターは、東日本大震災により被災した宮城県山元町に対して復旧・復興支援を進め、2013年3月には「山元町の上下水道事業支援に関する協定」を締結し、上下水道の復旧・復興と安定的かつ持続的な事業運営の確保をサポートしてきた。今年3月に協定締結から10年の節目を迎えたことを機に関係者が集まり、橋元伸一・山元町長、山岡秀一・横浜市水道局長、遠藤賢也・横浜市環境創造局長、鈴木慎哉・横浜ウォーター代表取締役社長による座談会や、受入経験者や横浜市の派遣経験者による当時から振り返っての談話などを行った。ここでは座談会の詳細を紹介する。



(左から) 遠藤局長、山岡局長、橋元町長、鈴木社長

東日本大震災から12年、「山元町の上下水道事業支援に関する協定」の締結から10年を迎えました。まずはこれまでを振り返っての思いなどをお聞かせください。

橋元町長 山元町では町全体の約40%が津波被害を受け、人口は震災前の約1万7000人から約1万2000人にまで急激に減少しています。この12年を振り返ると本当に様々なことが思い出され、短いようで非常に

長かったというのが率直な気持ちです。

現在は、津波で被災した沿岸部の土地の活用をどうしていくかが大きな課題となっています。

上下水道事業は施設に大きな被害を受けると、料金収入も大幅に減少する状況となりました。そうした非常に厳しい状況にあつたなかで、上下水道事業に精通している横浜市の職員、横浜ウォーターの社員に来ていただき、復旧復興

口を増やしていくことも、今任んでいる町民の方々が楽しいと感じるまにちにしていく必要がある、様々な企画を考えているところです。

上下水道事業は施設に大きな被害を受けると、料金収入も大幅に減少する状況となりました。そうした非常に厳しい状況にあつたなかで、上下水道事業に精通している横浜市の職員、横浜ウォーターの社員に来ていただき、復旧復興

ていても連携がしっかりとできていることは意義深いと感じています。また、横浜ウォーターが本市の有する技術・ノウハウを活用し、持続的な上下水道事業運営に向けた「山元町モデル」は、同様の課題を抱えている中小事業体支援につながるものと言えます。

遠藤局長 チャレンジングな取り組みとして、横浜市が100%出資して設立した横浜ウォー

ターという会社を通じて復旧復興と事業運営の支援に携わったことは非常にありがたく嬉しいことです。協定締結から10年という節目を迎えましたが、次の10年もの関係性を継続・発展していけたらと思っています。

鈴木社長 震災後はじめて山元町にお伺いして現場調査を行った時、このまま帰るわけにはいかない、継続的に復興そして事業運営支援をしていく枠組みを構築しなければ

いけないと感じました。トマネジメント部門を受賞できたことは大変嬉しく思っています。

これまで横浜市、横浜ウォーターの多くの職員・社員が山元町の支援に関わってまいりましたが、横浜にとつての山元町とはどういった存在と言えるでしょうか。

山岡 水道局では平成24年1月から令和3年3月までに9人の職員を派遣させていただきました。当局は事業規模が大きく多くの職員を抱えて

いるため、仕事は分業制で進めています。山元町への派遣によって、組織の環境が異なるなかでの活動を通じて得られた経験・知識は非常に大きく、事業全般を俯瞰して見ると視野の広さを身に付けることにもつながっており、このことは当市での事業運営にも大いに役立っていると感じています。

また、山元町は震災後も台風による風水害や地震などの被害を受け、発

頼りになる家族のような存在 山元町モデルで中小事業体支援を 縁を大切に互いに良い関係を 経営基盤の強化へ今後も伴走

…橋元
…山岡
…遠藤
…鈴木

ばと強く思ったことが思い出されます。横浜ウォーターが設立したのは震災発生の約半年ほど前で、現在までに多くの上下水道事業支援をさせていただいておりますが、山元町はまさに国内支援の二丁目一番地であり、町の皆さまとはたくさんの方の苦勞を分かち合ひながら基盤強化の取り組みを進め、その成果が評価されて平成30年に第11回国土交通大臣賞（循環

向け、引き続きこの縁を大切にしてお互いにとって良い関係を築いていきたいです。

鈴木 復旧・復興に関する検討とともに、持続的な上下水道事業の実現に向けて、包括的業務委託の導入をはじめモニタリング・アセット・ストックマネジメントや経営戦略の策定、有収率の改善に向けた取り組み、水運用再構築など様々なことを支援させていただきましたが、時には遠慮なく意見を言わせていただいたこともあり、物事を改善していくためには答えや成果が出るまで考え、軌道修正を図りながら実行し続けることの大切さを実感しました。

これまで山元町の支援に携わった社員の数は4、50人にものぼり、その数は毎年増えています。これからも絆を深めていきながらサポートを続けていけたらと思います。

山岡 市からの職員派遣は終了しましたが、これから自分たちが持つ技術・ノウハウを活かして、横浜ウォーターを通じて山元町の持続可能な上下水道事業運営に貢献していきたいと思

また、全国各地の水道事業を取り巻く環境はますます厳しくなっていますが、横浜ウォーターが各事業体の課題解決に貢献するため、本市がサポートすることは重要な責務と言えます。「山元町モデル」を同様の課題を抱えている事業体にも役立てていきたいです。

橋元 今後も横浜市、横浜ウォーターをまだまだ頼りにしています。この協定をこれからも継続していき、良い関係を

これまで料金及び使用料の値上げをせずに来られておりますが、今後は施設の老朽化が進むことで更新需要の増加が見込まれており、一層の経営努力が必要であるとともに、適正な料金についても真剣に考えなければならぬ時期を迎えていると思

また、全国各地の水道事業を取り巻く環境はますます厳しくなっていますが、横浜ウォーターが各事業体の課題解決に貢献するため、本市がサポートすることは重要な責務と言えます。「山元町モデル」を同様の課題を抱えている事業体にも役立てていきたいです。

橋元 今後も横浜市、横浜ウォーターをまだまだ頼りにしています。この協定をこれからも継続していき、良い関係を

これまで料金及び使用料の値上げをせずに来られておりますが、今後は施設の老朽化が進むことで更新需要の増加が見込まれており、一層の経営努力が必要であるとともに、適正な料金についても真剣に考えなければならぬ時期を迎えていると思

出席者	
山元町長	橋元伸一氏
横浜市水道局長	山岡秀一氏
横浜市環境創造局長	遠藤賢也氏
横浜ウォーター代表取締役社長	鈴木慎哉氏